

編	集	後	記
---	---	---	---

リハビリテーション医学が包括医療としていろいろの患者を扱うということの他に、固有の研究領域の確立もまた1つの独立した専門分野となるために必須のことである。本邦に導入された最近までのアメリカあるいはヨーロッパのリハビリテーション医学においては、以前より本邦にすでに存在した身体障害者に対する care と相俟って臨床医学としてどのような患者を対象とするかという問題はすでに解答を得ているように見える。しかし固有の基礎研究、または臨床研究ともなれば、いまだ学会においてもほとんどが他領域との関連において、あるいは極論すれば借り物といえないこともない。

本号においては労災義肢センターの土屋和夫氏の助言による人間工学の特集を行っており、将来のリハビリテーション医学の固有の研究領域の1つとして大いに期待され、我々も学ばねばならないものである。リハビリテーション工学概論の土屋氏よりはじまり、横溝氏、河村氏が日頃の研究の成果をもとに、物理学や工学にあまり知識を持たない者にも理解しやすく説明された。また加藤氏らの RESA グループはアメリカの代表的整形外科のリハビリテーションセンターの1つの中心である Rancho Los Amigos Hospital でのシステムを通して工学関係の専門家が臨床医学へいかにして関連を持ち、またサビースするかという問題を討議された。工学にまったく素人である者には入門書の紹介も示されており、その思慮深さに深謝するものである。

装具の改良試作に不断的努力をしておられる渡辺英夫氏らが、新しいタイプの dynamics finger splint を作って示された。この種の splint は思ったより実用性がなく外観も bulky で著者の述べているのとまったく同感であり、そのため新製品が考案される価値がある。高口氏らの腰背痛の心身医学上の問題点は腰痛疾患を専門に扱っている者の1人として小生も興味深く読ませていただいた。

(大井 淑雄)

編集顧問

天 見 民 和	砂 原 茂 一
大 島 良 雄	津 山 直 一
小 池 文 英	水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙	荻 島 秀 男
上 田 敏	土 屋 弘 吉
大 井 淑 雄	横 山 巖
大 川 嗣 雄	

編集同人

赤 津 隆	橋 倉 一 裕
青 山 孝	平 方 義 信
今 田 拓	三 島 博 信
今 村 哲 夫	山 内 裕 雄
江 口 寿 栄 夫	渡 辺 英 夫
小 野 啓 郎	飯 田 卯 之 吉
河 邨 文 一 郎	遠 藤 千 恵 子
金 久 卓 也	小 川 孟
兼 松 英 夫	加 藤 一 郎
五 味 重 春	小 島 蓉 子
沢 村 誠 志	笹 沼 澄 子
杉 山 尚	鈴 木 明 子
中 村 裕	高 田 玲 子
野 島 元 雄	陳 慧 玉
間 得 之	野 本 卓
長 谷 川 恒 雄	

(以上五十音順、敬称略)

(担当：細田，田村，鹿島)